

～光はあなたのすべてを照らすことができます～

このような話があります。ある有名音楽家が3億円するヴァイオリンで演奏会をしました。そのチケットは即売で一日にして1500万ドルを稼ぎました。その次の日、同じ音楽家が同じヴァイオリンを使って街の一角でストリート演奏をしました。さて、そこでその人はいくら稼ぐことができたでしょうか・・・その答えは、32ドル。そこを歩きかう誰もがその人だと気づくことなく、その音色に足を止めることもなく過ぎ去ってしまったのです。ある人は忙しさで心をむけることができなかつたでしょう、また違うことを考えていたのかもしれない。なかには、まさかこんなところにはいないだろうと思った人もいたでしょう。このように私たちは、自分の目で見ても気づくことができないこと、分からないことがたくさんあります。今日は私たちが神様に向けなくなる時どうすればよいのか、ヨハネ1：1～5,11～13から学びます。

初めに、ことばがあった・・・この“ことば”とはイエス様を指しています。つまり、イエス様は私たちに見える言葉の表れとしてこの地に来られました。旧約聖書で神様は人に神様とはどういう存在であるかを教えました。最初の人、アダムとエバの心は次第に神様から離れ、言い訳をして自己中心となり、闇で覆われてしまいました。また、人は悲しみや苦しみによっても闇で覆われてしまいます。新改訳聖書ではこの闇は光に打ち勝たなかったとありますが、多くの訳で闇はこれを理解しなかつた、悟らなかつたとあります。これは、私たちは生きていく中で挫折したり傷ついたりすることで心に壁ができてくることを指します。それによって光を壁が遮って闇が生じます。そこに触れてくださるのがイエス様です。その閉ざされて光の届かない場所にイエス様は光を与えに来られたのです。しかし、ここに闇はこれを理解しなかつたとあります。それは私たちの心の闇はそれを悟ることができなかつたということ、つまり、自分の価値観でイエス様をみるなら分からないということです。あなたのなかに自分ルールがありませんか？私たちは自分の行動がイエス様のみこころか自分の考えか、正しいか正しくないかを判断しなければいけません。それがないと私たちは自分のルールをつくり、最後に自分が正しいとなります。そうすると人の話が聴けなくなり、人の話を理解できなくなります。今日、神様はそのようなあなたの心の光をささげる壁を取り除こうされています。そこで今日は、イエス様の近くにいなから神様のことばを理解できなかつた人、イスカリオテのユダをみていきましょう。彼の基準はいつも自分で、イエス様をどのようにして自分の願う王様にするかを考えていました。あなたも同じように神様を自分の都合のいいように用いていないでしょうか。私たち日本人は特にそのような傾向があり、困ったときの神頼みという言葉のとおり自分にとって都合のいい様々な〇〇が叶う神々のところへ参り、叶えば信じるということも多くの人がやってきました。このような自分がどうかを重要とするならば、神様のことばは関係なくなります。しかし、気をつけなければいけないのは、私たちクリスチャンもいつのにかに神様より自分を優先してしまうことがあるということです。ですから、神様は私たちに語られています。1. **光に答えを見出す～自分で始末しない～**（マタ27：5～10）私たちは神様のみこころのとおりにといいながら自分の思い通りにいかないと文句を言い、自分で始末しようとしてしまいます。イエス様はユダが神様に立ち返ることを望んでおられましたが、ユダは自分の思いで行動してしまい、自分ではどうにもできなくなり自殺という道を選んでしまいました。もちろんこのような中においても神様はユダが売ったお金で異邦人のために救いの場所を用意されユダの失敗を神の計画、益とされました。では、このことを受けて私たちがしなければいけないことはなんなのでしょうか。それは自分の悪巧みがばれたときに言い訳や人のせいにしないということです。自分が悪い状況に陥ったとき自分で始末するのではなく、そのことを素直に認め、神様にごめんなさいをし、神様に委ねるということです。悪い状況で自分の一部の行為を指摘されると自分自身を全否定されたように思い込んでしまいがちです。そうすると、例えばあなたの目の前に神様がいても分からなくなります。しかし、信仰を持って進みだした人に神様が用意してくださっているものは、目が見たことのないもの、耳が聞いたことのないもの、人の心に思い浮かんだことのないものである、と聖書に書いてあるとおりです。ユダのようにイエス様のされることに疑いを持たず、自分の価値観を捨て神様の答えを受け取りましょう。2. **神は相反する状況から導く～キリストの身文～**（ローマ8：28-30）ユダはイエス様と共にいて何度も自分を変えるチャンスがありました。最後の晩餐の時も、イエス様を売った時も、もしユダがイエス様のところに行って赦しのことばを得ていたなら、彼の人生は変わっていたことでしょう。しかし神様の計画より自分の方法が先に立ち、変えることができませんでした。私たちのうちで神様を信じたらそのときから全く変わった、問題が起ころなくなったという人は誰もいません。それでも、初めて教会に来たときと今のあなたの姿を見比べたらどうでしょう。イエス様に出会っていっぺんには変わらなくとも、問題に目を向けたときに今まで自分は間違っていないと思っていたことも、もしかすると違うかもしれないと思えるようになったところもあるのではないのでしょうか。それは自分の思いと相反することで、それに気づけることが素晴らしいのです。実際に自分を見ることができるのは問題に目を向けたときです。そのことでつまずいたり倒れたりすることもあります。神様はつまずいても倒れても起き上がる力を与えてくださいます。失望しても絶望とはなりません。神様は問題を問題のまま終わらせる方ではありませんから、私たちは聖書をただ読むのではなく、みことばを通して神様が何を自分に語ってくださっているのかを求めなければいけません。そうすれば大変だった時の事を笑って語れる時がくるのです。問題から逃げなければ、神様が働いてくださり解決を得られます。こうして私たちはイエス・キリストの証し人となっていくのです。ローマ8：28-30に私たちは御子の形に定められたとあります。今はまだそうではないかもしれませんが、これからのあなたの生き方はイエス様の人生だったといわれるように歩むことができます。神様はあなたを選び、神様の姿になるように人生の全ての出来事を赦されました。もし私たちが神様を知らなかつたなら憎しんで呪って終わりの人生だったかもしれません。しかし今、神様を知り、正しい道に帰ろうとする私たちにとって問題は問題ではありません。相反する問題の中で神様は答えを与えてくださるからです。3. **あなたの居場所にある暗闇を光に！！～あなたは勝利者～**（ローマ8：31-39）パウロはローマ人に、どんな問題や苦しみの中にあっても、イエス様から離れなければ絶対に益になると伝えています。ですから私たちも自分のうちにある暗闇、自分を守ろうとし、生かそうとし、成功させようとする自分自身を神様の御前に出しましょう。もうあなたを指差して訴える人はいません。今日から言い訳をせず、失敗してしまう心に神様から光をさしてもらいましょう。主がせよと言うことはたくさんではなく、難しいことはありません。あなたの心にある壁を取り、神様に心を見てもらいましょう。あなたの心の扉を開きましょう。そうすればあなたの心は神様のことばで満ち溢れます。今まではどこにいても同じ問題で悩んでいたかもしれません。しかし、今、これを断ち切り新しくなりましょう。そこに神様は益とする力を与えてくださるのです。あなたの中で、御霊の実である「愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制」のうち足りないものがありますか。それら得るにはあなたのうちに働かれる神様のみことばに心を向けることが大切です。神様から光を与えてもらい、光の中を歩みましょう。（要約者：金光 瞳）